

**(6) ファカルティ・ディベロップメント委員会****① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD委員会」という。）は、上越教育大学における教育活動の質的向上と発展を期して、ファカルティ・ディベロップメント活動（以下「FD活動」という。）を実施することを目的としている。

**イ 組織の構成及び構成員等**

FD委員会は、FD担当の副学長、各コースから選出された教授又は准教授（講師及び助教を含む。）、その他学長が指名した者の計14人の委員で組織されている。

また、本委員会の下には3つの専門部会が置かれ、FD委員会学部専門部会はFD委員会委員11人及び教育支援課長の計12人で、同大学院修士課程専門部会はFD委員会委員10人及び教育支援課長の計11人で、同大学院専門職学位課程専門部会はFD委員会委員2人及び教育支援課長の計3人で、それぞれ組織されている。

**② 運営・活動の状況****ア 委員会等の開催状況**

平成28年度は、以下のとおり委員会を3回開催し、書面審議を1回行った。

- ・ 第1回 平成28年5月12日（木）
- ・ 第2回 平成28年10月25日（火）
- ・ 第3回 平成29年3月23日（木）
- ・ 書面審議 平成28年12月21日（水）～26日（月）

**イ 審議された主な事項**

- i) 平成28年度FD活動計画
- ii) 平成28年度年度計画に係る実施計画の作成
- iii) 平成28年度授業公開の実施
- iv) 平成28年度学生による授業評価の実施
- v) 平成27年度学生による授業評価報告書の作成
- vi) 平成28年度前・後期「学生による授業評価アンケート」の集計結果に基づく自己評価レポートの作成
- vii) 学生による授業評価に係るシステムの導入
- viii) 学部、修士課程及び専門職学位課程専門部会の廃止

**ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等**

- i) 教職カリキュラム質保証検討委員会と連携したFD研修会及びFD講演会の実施

文部科学省委託事業の円滑な実施に向けて、学内外の委員で構成する「上越教育大学教職カリキュラム質保証検討委員会」が設置されたことを受け、同検討委員会と連携し、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることにより学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員を養成するための取り組みの一環として、以下のとおり実施した。

〈平成28年度FD研修会〉

平成28年11月2日（水）に、愛媛大学学長特別補佐の小林直人教授（教育企画室長）を講師として、開催した。この研修会は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図ることを目的として開催され、まず講師による「アクティブラーニングによる授業改善、その考え方と具体的な手法－医学部での実践を通じて－」をテーマとした講演の後、講演内容を踏まえたグループ討議及びその討議結果の共有と講師からの助言等の流れで進められた。

研修会には、ファカルティ・ディベロップメントの一環としてアクティブ・ラーニングの積極的な導入に取り組む教職員30人、ティーチング・アシスタントを中心とする学生14人が出席した。

〈平成28年度FD講演会〉

平成29年2月22日（水）に、京都大学高等教育研究開発推進センターの松下佳代教授を講師として開催した。この講演会は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図ることを目的として開催され、まず、本学におけるファカルティ・ディベロップメント活動の現状や問題点などを共有した後、これらを踏まえて講師による「ディープ・アクティブラーニングの考え方と方法Ⅱ－初等中等教育での取り組みの成果と課題－」をテーマとした講演を実施するという流れで進められた。

講演会には、教職員及び学生約150人が出席した。

#### ii) 学生による授業評価に係るシステムの導入

本年度の授業評価の実施に当たっては、平成29年度に向けて本年度中に運用方法の見直しを行うことを条件として予算措置がなされたこと。また、「機能強化促進経費」において授業評価アンケートシステム構築に関する予算が措置されたことを受け、授業評価の基本的な流れを変更せずに、Web入力による授業評価アンケートシステムを構築・導入した。

### ③ 優れた点及び今後の検討課題等

#### ア 優れた点

- i) 平成28年度FD研修会の参加者から、「この研修により、他分野の実践例も参考に、これからの授業への効果的な活用方法などを考える良い機会とすることができた」あるいは「実際にアクティブ・ラーニングを体験しながらアクティブ・ラーニングについて考えることができた」等の感想が寄せられた。
- ii) 平成28年度FD講演会に参加した教員から、「自分の授業の進め方を工夫するヒントとなった」や「内容が具体的で、授業に活かせるものであった」等の感想が、また、学生からも「より実践的で自分が教壇に立ったときのアイデアが湧いた」や「現場に戻る者としてたくさんのヒントを得ることができ有意義だった」等の感想が寄せられた。
- iii) Web入力による授業評価アンケートシステムの導入により、授業評価アンケートを効率的に実施し、コストを削減した。
- iv) これまで学部、修士課程及び専門職学位課程の各専門部会で対応してきた事項について、必要に応じてWGを置くなどして委員会で一元的に対応することとし、平成29年3月31日付けをもって、それらの専門部会を廃止した。

#### イ 今後の検討課題

- i) 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う資質能力の向上について（平成27年12月21日）」の中で指摘されている「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等に対応した教員養成への転換」の実現に向けた取り組みの継続
- ii) Web入力による授業評価アンケートシステムへの円滑な移行と回収率の維持
- iii) 授業公開に係る参観数の向上